

ふれあいを通して 学びの循環を創る



人は新たな「出会い」「感動」によって成長します。そして、成長することで自らの可能性を広げます。子どもが成長できる環境を提供し、子どもと学生と大人がともに学び、成長し、感動を共有できる場づくりに取り組む団体取材しました。

学生が楽しくなければ子どもたちも楽しくない

「学生と子どもがともに触れ合い、ともに楽しみ、感動を味わえる活動をしています。」

現在は、19名ほどの学生が中心となって運営する小さなボランティア団体ですが、「自由にのびのびと」をモットーに、まずは学生自身が楽しめること、そして、参加費を払ってでも参加したいと思えるような企画を考えながら、日々活動しています。

「普段からJC関係の方々とは連携しながら、子どもたちの生き生きとした活動を通して学生もまた成長できることがなにより楽しいです。」と語る、代表の木戸さんにお話を伺いました。

現代版てらこやをつくりたい

設立のきっかけは、草津JCの方々でした。現代版てらこやを草津でも創りたいという思いから、学生に声をかけたことから始まり、その輪が広がって今では学生が企画や事業実施の中心となり、大人は資金面のフォローや事務局運営をしています。学校や地域の垣根を超えて、多くの子どもたちの出会いとふれあいの場を提供する活動をしています。

この現代版てらこや自体は全国各地にあり組織化していますが、滋賀県内ではまだ、びわこてらこやただ一つです。滋賀の自然や伝統・文化などを活動の原点としていきたいとの思いから、「びわこてらこや」と名付けられたそうです。

びわこてらこやは学生が主体の団体でありながら、設立以来、継続して資金・運営面等でJCの方々にも支えられている団体です。学生がJCの方とともに運営するこうした団体は全国でも珍しく、JCの方ならではの豊富な経験や、親目線のアドバイスなども、活動するうえで大きな助けになっています。

活動分野

子どもや学生の居場所作り

スタッフ数

19名

団体設立

2012年6月8日

団体ホームページ

<http://biwakoterakoya.web.fc2.com/>

学生もまた、仲間づくり

活動は、週に1回の次回イベントに向けた打ち合わせ会議や毎月のイベント、夏合宿などがあります。特に夏合宿は年に1度の大会イベントです。

「活動の主役となる子どもたちは、親同士の口コミや、各小学校に配布するイベント情報をもとに集まってきてくれますが、どの活動に参加しても、子どもたちが仲間とともに自主性、自立性を育むことができるよう、私たちはその土台づくりを手助けします。」

そうした中で、活動していて大変だと感じることもあるようで、「企画の段階からJCの方がかかわってくださるので、企画書や予算書のチェックが結構厳しく、なかなか承認が得られず、苦勞することもあります。ただ、私たち学生も、大人の力が必要な時には積極的にJCの方に助けてもらっていますし、そんな中で企画が通り、事業が成功したときの感動と達成感。子どもたちから参加してよかったと言ってもらえたとき。そこから何かを学んでくれたとき。道で出会って声をかけてくれたとき。この活動をやっているよかったですと思える瞬間です。」

活動の場を提供するために、まずは活動をとにする学生仲間の確保も大切です。決して華やかな活動とは言えませんが、活動を通して子どもたちが人として成長する過程での手助けとなり、自分たちもまた子どもたちによって成長することができるこの活動を学生仲間と共有したく、呼びかけています。特に、新入生に向けての情報発信や、各大学のボランティアセンターを活用したPRをするほか、全国のてらこやの集会に参加し情報交換しながら、メンバーの開拓にも力を入れています。



▲夏合宿。いっぱい思い出ができました。



▲事業前の学生朝集合。ここで学生が注意事項をしっかりと共有します。



▲てらこや創造プロジェクト。JCさんとともに鎌倉へ。

やんちゃな子どもたちとともに

びわこてらこやに来る子どもたちは、“元気”というより“やんちゃ”ということばが似合います。日ごろは親や学校の先生にも見せない姿で手加減せずに向かってきてくれます。活発で素直でいい意味でのやんちゃな子どもたち。子どもたちと年齢が近い私たち学生ならではのかわりが実感できる瞬間であり、保護者の方からも喜ばれています。

ここは、子どもと学生がともに成長し感動を共有できる場所です。子どもたちの成長を感じる一方であふれるパワーから元気をもらう。そこには、“やりがい”ということばだけでは語れない“ものごたり”があります。それがこの活動を続けていける源です。



びわこてらこやマスコットキャラクター
てらこん

取材メモ

高校生のときからびわこてらこやにかかわってこられたという木戸さん。「来年以降、誰に後を引き継ぐかはまだ決まっていますが、先輩たちが続けてきてくれたびわてらをずっと続けていきたい。」と、最後に話してくれました。子どもたちの笑顔を通しての数えきれない経験が、続けていきたいという思いにつながっているのでしょう。



【注釈】 JC（Junior Chamber）：公益社団法人青年会議所

【発行元】 まちづくり協働課

TEL 077-561-2337 FAX 077-561-2482